

抗 cMyc phospho-Ser62 抗体、モノクローナル(33A12E10)

71-161 50 µg

cMyc はヒトの種々の癌で広く高発現しているプロトオンコジーンである。cMyc タンパク質は多数の遺伝子の転写の促進と抑制に働き、細胞の増殖、アポトーシス、分化、幹細胞の自己更新を制御している。cMyc タンパク質の Ser62/Thr58 のリン酸化は細胞の増殖と細胞周期の制御に密接に関係している。Ser62 のリン酸化は Ras によって誘導される cMyc 安定化と活性化に必須であり、cMyc の分解のための Thr-58 のリン酸化にも必要である (文献 1)。

用途

1. ウェスタンブロッティング (~1 ug/ml)
2. ELISA

製品の性質

抗原: ヒト cMyc タンパク質の phospho-Ser62 を含む合成ペプチド

Isotype: マウス IgG2b (κ)

性状: 精製モノクローン抗体 (IgG) 1 mg/ml in PBS, 50% glycerol

反応性: Ser62 がリン酸化されたヒト cMyc タンパク質。マウスやラットも同じ配列を持っているので、反応すると考えられるがテストされていない。

保存: -20°C (長期 -70°C)

データリンク UniProtKB/Swiss-Prot [P01106](#) (MYC_HUMAN)

文献: 本抗体は文献 2 に使用されている。

1. Sears R *et al* "Multiple Ras-dependent phosphorylation pathways regulate Myc protein stability." *Genes Dev* **14**:2501-2514 (2000) PMID: [11018017](#)
2. Junttila MR *et al* "CIP2A inhibits PP2A in human malignancies." *Cell* **130**: 51-62 (2007) PMID: [17632056](#)

図. ウェスタンブロッティングによる cMyc phospho-Ser62

タンパク質の本モノクローン抗体を用いての同定。

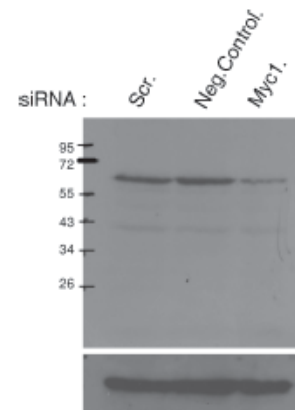
試料: AGS (gastric adenocarcinoma)細胞の粗抽出液。抗体使用濃度は 1 µg/ml。

Scr; cMyc と無関係な配列の siRNA ミックスをネガティブ コントロールとしてトランスフェクトした。

Neg.Control; Qiagen 社のネガティブ コントロールの siRNA ミックスをトランスフェクトした細胞。

Myc1; cMyc 用の siRNA をトランスフェクトした細胞。

このデータはフィンランドのTampere大学のDr. A. KhannaとDr. J. Westermarkから提供された。



ユーザーのコメント: "It certainly looks that S62-p-Myc antibody specifically recognizes c-Myc protein in human cancer cells and will be a very useful resource for future studies." Dr. Jukka Westermark, Institute of Medical Technology, University of Tampere